

「かけはし」50号発行に寄せて

代表 石野 信子

「かけはし」50号の発行、おめでとうございます。25年間にわたり、毎年2回発行して下さった担当スタッフの皆様(まいとし)に心から感謝申し上げます。学習者さんが原稿用紙に向かい、自分の言いたいことを日本語に表すのは、そう簡単ではなかったでしょう。でも、学習者さんの発表を聞いて、「この半年で日本語の表現力がこんなに豊かになった！」とびっくりすることがたびたびありました。そのたびに、指導スタッフの方々の実力を感心しました。また、スタッフの私たちも、学習者さんたちの出身地の生活や文化、習慣などを知ることが出来ました。「かけはし」を読んで、国際協会の活動に興味を持ったという方もたくさんおられます。これからも「かけはし」を通して、互いに交流を深めて行きたいと思います。

＜特別記事＞

日本語教室25年間の歩み

1995年～1999年(1号～12号)

国際協会日本語教室(夜間)の前身が市役所前のプレハブ会議室(現在の駐車場)で産声をあげたのは1991年5月頃でした。水曜日19時～21時まで。前半は全体学習、後半はマンツーマン形式でした。教室の準備が整うまで外で大勢の学習者が待っていました。

その後1992年11月国際協会日本語教室(夜間・昼)は運営部会の一つとして新たにスタート。教室は市役所地下1階食堂と隣の和室(市職員の昼休み休憩室)を使用、教材は和室の押し入れに入れました。当時の写真には、カレーライス〇〇円・ラーメン〇〇円等と書かれた札がぶら下がっている所で一生懸命学ぶ学習者の姿が写っています。

1995年7月「かけはし」第1号を発刊、題字は当時のスタッフの自筆で現在も使われています。学習者が帰国後も「日本とのかけはし」になって欲しいと願いがこめられています。

学習形式は原則としてマンツーマンで学習者の要望に沿い、入門・初心者には「しんにほんごのきそ」を使用。その後改訂され「みんなの日本語」になりました。また、講師を招きその時代に合う日本語の研鑽にも努めました。学習者の申し込みが多く和室では何人かのグループにスタッフが付き、また応じきれない

時はウェイティングの形もとりました。女子大生スタッフも常時7～8人いました。学習者は中国からの残留孤児、ブラジル日系二世の女性たち、新聞配達をしながら日本語学校へ通うタイの若者、ノバの英語教師、証券会社の社員、会社のトレーニー、イランの青年、夫の留学・転勤で来日した主婦など、また国分寺市近辺には大学、研究所があり留学生、研究員等多彩でした。

現在のN2、N1に当たる日本語能力検定試験2級1級に合格者も多数出ました。日本の文化習慣の紹介の他、野外行事を行い教室全体の親睦もはかり、多数の人が参加しました。

夫の転勤・留学等で来日した主婦が自国でのキャリアを生かせず(日本では当時正規の仕事につけなかった)残念でした。現在の教室には仕事を持った女性が多く時代の流れを痛感します。スタッフは卒論の手伝い、就職のための履歴書の書き方、帰化・永住権をとるための法務局への申請書、赤ちゃんを連れた人には入管、国分寺市の書類の手続きにはスタッフ二人がかりで、一人はベビーシッター、一人は書類の手続きに付き沿い、離乳食の指導にもついて行きました。当時の学習者の作文に「日本語教室は国際家族みたいですよ」と書かれていたのはスタッフ一同にはとても嬉しい言葉でした。

1980年代日本のバブル期「きつい、汚い、危険」

といわれた3Kの仕事が外国人が働くようになり、日本中に「雨後の筍」のように日本語学校ができました。休日の上野公園にはイラン人が溢れているというニュースがメディアに流れるなど、「かけはし」1号から12号までの時代は、まさに「当時の日本の縮図」そのものでした。(織井恵美子)

1999年～2003年 (13号～25号)

当時は、大変活気のある教室で、学習者は中国、カナダ、台湾、アメリカ、タイ、韓国、ノルウェー、インド、オーストラリア、フランス、イギリス、ブラジル、ナイジェリア、トルコと多くの国の方たちがいました。スタッフは学習者に日本語の勉強を教えるだけでなく、野外行事や様々な行事を企画し、学習者がいかに喜んでくれるか、楽しんでくれるかと常に考え、事前準備の大変さを厭わず、どの行事も一生懸命に取り組みました。学習者も「この教室に来ると、家に帰ったような温かみがあり心が和みます」と言ってくれ、その言葉はスタッフの大きな励みになりました。

各行事はスタッフも学習者も積極的に参加し、いつも大賑わいでした。

2001年の昭和記念公園の「芋煮会」では、総勢52名が参加。スタッフが里芋や肉、野菜を持ち寄り、公園から借りた大鍋2個で芋を煮ました。スタッフが持ち寄ったおにぎりや様々なおかず、果物、お菓子を並べ、大きな車座になっておいしくいただきました。食後はいろいろなゲームをして、皆でおなかをかかえて笑い、秋の一日を過ごしました。

他にも府中の森(2001年34名)、川越歴史散歩(2003年54名)多摩動物公園(2005年57名)と大勢が参加し、ゲームをしたり散歩したりして楽しく過ごしました。国分寺祭りの歴史行列にも毎年学習者が4、5名参加し、華やかな天平、平安、鎌倉時代の衣装を着て行列に参加しました。学習者にとって、とても思い出深い一日となりました。スタッフも模擬店に参加し杏仁豆腐(1999年)、豚汁(2000年)、クレープ(2001、2002年)を作りました。どれも好評で特に2001年は学習者のT・ブレさん(仏)を中心に4種類のクレープを焼き、348枚を午前中に完売し、翌年は、493枚をやはり午前中に完売し大好評でした。スタッフは前日からいろいろと準備し、当日は呼

び込みもし、材料を吟味し贅沢に作ったため、よく売れた割には儲けは「いまいち」で、「商売は難しい！」などと冗談を言って大笑いしました。祭りの終わりの頃には、スタッフは皆疲労困憊状態でしたが、学習者と一緒に楽しい時を過ごし、幸せな気分になりました。(清水仁子)

2003年～2013年 (26号～38号)

●2008年 日本語教室の移転

日本語教室開設以来、使用していた旧市役所内の一室から福祉センターの現教室へ移転しました。恋ヶ窪駅から徒歩20分、畑の向こうに広がる夕焼けの美しさを眺めながら福祉センターに向かいます。帰りは「集団下校」と称して、学習者やボランティア仲間たちとおしゃべりをしながらみんなで駅へ向かいました。寒い冬の夜でも、楽しいひとときでした。

しかし、入室希望者には目印となる物がなく、人通りの少ない周辺では尋ねる人もなく、建物を見つけられず、近くまで来ながら帰る方もいたようです。今は、スマホで調べながら教室に来れるので、便利になりました。

●東日本大震災

2011年3月、日本の観測史上最大規模の震災により、殆どの学習者が帰国しました。日本に残った数名の学習者の希望で、日本語教室を続けましたが、すべての公共施設は停電により、しばらく夜間の使用は出来ませんでした。土曜日の午前中、ひかりプラザの部屋を借りて勉強をしました。

被災地を襲った津波の様子は、世界中に繰り返し放映されたようです。かつての学習者が、心配して、母国からスタッフにお見舞いの電話やメールをくれました。中には、「しばらく自分の家に住んでもいいよ」と言ってくくださる方も、遠く離れていても、日本を心配してくださったことに、感謝の気持ちでいっぱいになりました。数週間後には、学習者も帰ってきて、以前の活気溢れる教室に戻りました。日本語教室設立以来、大勢の外国の方、ボランティアの方、関係者の方々と出会い、また、様々な問題を経験をしました。日本語教室を通して、たくさんの方の事を学ばせていただきました(廣田昌子)

2014年～2019年（39号～49号）

1995年の第1号から24年間途中約3年の休刊はありましたが、今日までよく続けて下さいました。編集の方々、投稿して下さった学習者、「私の国」「私の好きな言葉」等を通し普段あまりお話する機会のない皆様を身近に感じることができました。心より感謝申し上げます。

39号から49号を読み返し、今現在まで6～10年以上教室に在籍の学習者、スタッフが多くいらっしゃることに改めて気づき、喜ばしく、心強く思いました。

41号の特集「日本の好きな食べ物、嫌いな食べ物」を読んで、私の印象に残っている思い出の一つをご紹介します。多くの学習者が「納豆は嫌い」と書いておられましたが、私の担当した彼は、一緒に勉強を始めた第一日目に、「私はお昼ご飯に納豆を食

べます」と言いました。「お弁当に納豆を？」と聞くと「ご飯とナットーを別に持参してお昼にナットーかけて食べます」ということでした。その日は一日、納豆のおいしい食べ方を話してくれました。41号には「初めは嫌いであったが、妻がおいしい食べ方で作ってくれ、今では好きになりました」とあるので、それ以来、ますます納豆が好きになったのでしょう。今、納豆が嫌いな学習者の皆さん、納豆は体に良い発酵食品なので工夫しておいしく食べて、ぜひ好きになってください。今後の「かけはし」、日本語教室が、常に「一期一会」の気持ちで教室同様、行事などにも皆で協力し、教室の真の目的を理解し、楽しく、互いに成長していける場として、これからさらに60号、70号、30年、40年と続きますようにと願っております。（松方晃子）

ぎょうじ いろいろな行事

たなばたまつ 七夕祭り

6時頃から着付けを希望された学習者さんに「ゆかた」の着付けが始まりました。日本の着物を着るのは初めてという方がほとんどでした。男性は帯一本で、女性は「こしひも」と帯一本で着付けがあつという間に出来上がるのが、学習者さんには興味津々。また、「げた」は珍しかったようですが、足が痛いようで



苦労していました。

教室では、笹飾りができており、学習者さんが書いた「たんざく」の願いごとを見たり、写真を撮ったり。そして、韓さん（学習者）が描かれた素敵な墨絵の七夕の絵をみながら七夕のお話を聴きました。

（清水礼子）



<七夕まつりに参加して>

中国人女性

七夕まつりは、7月7日、日本全国で広く行われています。「牽牛と織姫」が会う日と言われています。学習者は学習開始前に、スタッフに浴衣を着つけてもらいました。私は、笹に私の願いことを書いた短冊を吊り下げました。

今年の七夕祭りはとても楽しかったです。来年の七夕祭りも楽しみにしています。

たんざく
短冊(学習者のみなさんの願い事)



- ◆ N1に合格したい
- ◆ 日本で生活が楽しく健康で過ごせますように
- ◆ 日中が友好でありますように
- ◆ 日本にずっと住みたい
- ◆ 恋人が欲しい
- ◆ 日本語が上手になりたい
- ◆ 日本で小説家になりたい
- ◆ 天才になりたい



つきみ
お月見

9月11日、教室の前方にはお月見には欠かせないお供え物等が飾られ、この日のお教室は、すっかりお月見ムードでいっぱいでした。

全員に配布された資料は、学習者が理解し易いように工夫されていて、説明も明快でとても印象的でした。

お月見は中国や日本の風習だけでないことがベトナム人のブイ・ティ・ジョさんの発表から分かりました。内容が一目で分かるカラー写真を各テーブルに



配った工夫にも感心しました。彼女のスピーチを更に色鮮やかにしたように思います。

中国の「お月見」について発表した李さんのスピーチは日本人顔まけ。しっかりとした内容で、自信に満ちた発表はとても立派でした。さらに、スタッフが隣で写真を披露するなどサポートする姿は、スタッフと学習者の睦まじさが窺え、とても好感がもてました。中国の「お月見」には家族の幸せを願う温かい要素もあり、李さんの発表からは、遠い国に住む自分の家族のことを思い出しているのが感じられました。

そのあと、みんなで手づくりのお団子を頂きましたが、各テーブルで味わう「月見団子」は格別でした。そして、飾りに使われた秋の味覚はすべて学習者に配られ、お開きとなりました。準備から最後までスタッフの心遣いが行き届いていて、今回の文化紹介も中身の濃い活動になりました。

現代の日本人が忘れがちな「お月見」という風習。この日は、改めてその意味や美しさを学習者と一緒に考えることができたような気がします。

いそむらりょうこ
(磯村涼子)

ちゅうしゅうせつ
中秋節(お月見)

りせんと (中国)

中秋節は中国の春節と肩を並べるほどの重要な祝日の一つとなっています。中国では、中秋節は春節に次ぐ2番目の伝統的祭日でもあります。中秋の日が「1年の中で最も美しい月」とされていることから月を祭る日になったのです。

中秋節の、空に現れたまん丸い月は家族団らんを象徴するため、「団欒節」とも言われます。中秋節では、月餅と果物などの作物をお供えして、月の美しさを楽しみ、月餅を食べるといった行事となっています。月を拝んだあと、家族の年長者は人数に応じて月餅を分け、みんなで食べられるようにします。家族円満とみんなの健康を祈ります。



NHK コミュニティスクール

9月21日好天に恵まれ、Cocobunji プラザ、リオンホールにおいて、NHK コミュニティスクールが開催されました。当日は大勢の親子連れで賑わいました。

その一角で国分寺市国際協会が「今日のベトナムを知ろう！」と題してベトナムを紹介する展示を行いました。国分寺市が東京オリンピック・パラリンピックのベトナムのホストタウンになったからです。261名の方が展示を見に来られました。ベトナムの歴史や言語、紙幣の紹介、鮮やかな色合いのアオザイ、繊細な刺しゅうや螺鈿細工も展示され、皆さんその美しさに魅了されていました。ベトナム人の日本語学習者さんたちが来場者に母国の説明をしたのは、とても好評でした。また、来場者が「先日ホーチミンに出張で行きました」「ベトナムに行ってみたくまりました」「アオザイはどんな時に着るのですか？」など感想を話してくれたり、質問をしてくれたりしたので、小さな国際交流の場となりました。今回の展示に尽力して下さったスタッフの壽原さんには心から感謝いたします。



(柴田 真理子)

とく しゅう 特 集

今回の特集は、学習者の皆さんに「私の好きなどころ」または「行ってみたい場所」について書いていただきました。

四方十川 (中国人男性)

個人としては一番行きたいところは高知県の四方十川である。前にテレビ番組で「日本の最後の清

流」と言われる四方十川の特集を見て、山群の中にある広い川に、橋がかかっている絶景に感動した。絶景だけではなく、何よりも高知の郷土料理を食いたい。海に近いから、さぞ魚はおいしいだろうと思う。佃煮などを食べながら絶景を眺めるのは、最高に違う。

ホイアン (ベトナム人男性)

私の行きたいところはベトナムの世界遺産「ホイアン」です。ホイアンはベトナム中部の都市ダナンの旧市街です。そこは食べ物もおいしいし、空気と景色もきれいだし、人も親切です。ホイアンに来る時、ホアイ川の川岸を散歩したり、アンバン・ビーチで海水浴したり、五行山に登ったりします。毎月、旧暦14日には夜にランタンとイルミネーションの祭が開かれます。旧暦14日にホイアンに来たら、祭りを体験できます。私はホイアンに行ったことがありませんから、母とホイアンへ行きたいです。母はホイアンが好きだと思います。



上野公園 (イタリア人男性)

一番好きな場所は東京の上野公園です。公園の中にいろいろな美術館があります。よく新しい展覧会が開かれます。けれども、入るための列が長すぎます。有名な画家の展覧会を見たいです。今週、僕が見たいヴァン・ゴッホの展覧会がありますが、チケットはちょっと高くても時間ありません。上野公園は、春に桜が見られるし、秋に紅葉狩りもできます。香港から帰った時にももちろんもう一度上野公園に行きたいです。

私の故郷・フエ市

(ベトナム人女性)

私にとって、一番好きな場所はずっと故郷です。私の故郷はベトナムの中部で、フエ市です。こちらで生まれて育ちました。フエ市は京都のようなベトナムの古い首都です。こちらには古くて有名なお寺がたくさんあります。更に古くて大きい宮殿もあります。古い封建時代の首都として、ベトナム人の昔からの習慣が守られています。この季節は雨季と乾季の二つだけです。フエ人は誰にも親切で優しいです。

わたしのすきなばしょ 自然の中

(インド人女性)

だれにでも休日に訪れたいお気に入りの場所があります。私たちが会える美しい自然は私たちの心をリラックスさせるのに役立ち、日常生活から解放させてくれます。私は田舎で過ごすために、時々スケジュールを調整します。私は鳥のさえずりが聞こえてくるたくさんの木や巨大な山や小川のような自然が好きです。自然の中で過ごすことが、私の最善のリラックス法です。



私の好きな場所 国分寺

(中国人女性)

私の学校は国立駅あたりです。友達によく「どうして国立じゃなくて、国分寺に住んでいるの」と聞かれます。理由は国分寺駅には店が多いからです。私は買い物が好きです。国分寺駅はそのようなぶらぶらするのにいいところだと思います。MUJI、LOFT、東急ハンズなど日本の典型的な雑貨店、SEIYU、マルエツ、成城石井など雰囲気の違いスーパーや、サンドラッグ、マツキヨ、MCS、イセタン、Mirrorなど異なる特徴の化粧品の店があります。これらは私がよくぶらぶらする場所です。これらの場所で日本の商品を体験すると同時に、ここで買い物をしている人を観察する

のも私の楽しみです。私が中国にいたとき、両親が静かなのが好きなので、都心より少し遠いところを選んで住んでいました。ですから、買い物も学校も運転しななければならないので、大変です。東京は人が多い都市であり、商業施設が密集していて豊かです。自宅から徒歩5分に、コンビニ、カラオケ、カフェ、病院があり、とても便利だと思います。将来、私は他の国に住むかもしれません。世界には東京ほど住みやすい都市はないと思います。その時、きっと東京を懐かしがっているでしょう。



ミラの好きな場所 御岳溪谷

(スロヴァキア女性)

世界中に、いろいろな好きな場所がありますが、今日は、近いところについて書きます。それは、御岳溪谷と言います。それは主人の子供のころの幸せな場所です。かぞくとそこへよく行きます。私たちの幸せなところになりました。御岳溪谷は中央線の御嶽駅からあるいてすうふんです。けっこうふかく、いんしょうてきな溪谷です。そのまんなかでは、多摩川はいきおいよくながれています。川の水はとてもきれいです。ときどき川の一部にみずたまりができて、はるにおたまじゃくしがそだち、かえるとなります。むすこはそれをみるのがだいすきです。あるとき、むすこはすべってつまさきからあたままでぬれてしまいました。ここにはおおきなつりばしが谷の上にかかっています。そのはしはすこしゆれますが、そこをあるくことが好きです。けしきはそうかんです。御岳溪谷はどのきせつでもとてもすばらしいと思います。いつもおべんとう持っていますが、もちろん、かならずごみはもちかえています。

富山

(中国人女性)

私のもう一度行ってみたいと思っているところは日本の富山です。お茶会のきっかけで富山に行ったことがあります。地元の人々は私が東京から来たことを聞くと、「もし、次回富山に来

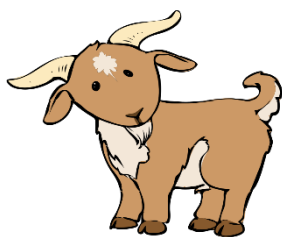


たら、ぜひ教えてください。うちの部屋にとめてあげますよ」というようなさそいをもらいました。本当にびっくりしましたが、心の中が暖かくなりました。お茶会が終わった後、私は富山の有名なガラス美術館に行くつもりだといいました。すると、となりの初めて会った人が、私の行程を知った後、「私は車を運転するので、連れて行ってあげますよ」と言いました。また感動しました。なぜ富山の人々はみんな親切なのか、と聞くと、「ああ、そうなの？多分、富山は東京より田舎なので、みんなの生活はのんびりかもしれません」と言われました。そして、もし機会があれば、もう一度富山に行きたいと思えます。

奈良

(インドネシア女性)

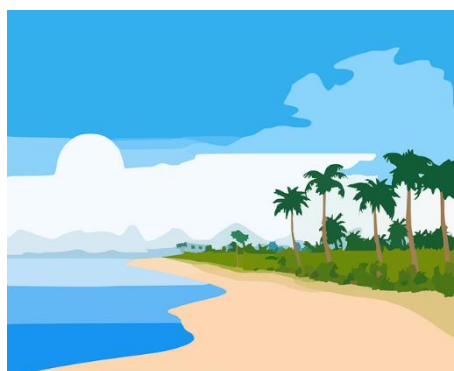
私の好きな場所はならです。ならでしかにおじぎをしてみたいです。私がしかにおじぎをしたら、しかがおじぎをしてくれるか、みたいです。4年前ならに行った時、しかがにんげんにおじぎができる事を知りませんでした。もう一回行って、しかがおじぎをしているすがたをビデオにとりたいです。



沖縄

(中国人女性)

もう一度行ってみたいところは沖縄です。海がとても美しく、ほかの所では見られない青い色です。潜水服を着て海底に潜ると素晴らしい物が見られました。サンゴや各種の泳ぎ回る小魚など奇妙な海底世界が見えました。これ以外にも、面白いイルカショーもありました。ずらりと並んでいても可愛いです。ショックのパラグライダーも忘れられません。美しい沖縄に機会があればまた行きたいです。



富士山

(ベトナム人男性)

私は山にのぼったことがないので、一回のぼりたいです。富士山にのぼるつもりでしたが、できなかった。山頂から下の景色を見たいです。来年の8月から9月の間に、もし帰国しないとき、富士山にのぼります。興味がある人、一緒にのぼりましょう。



私の好きな場所 伊根の舟屋

(台湾人女性)

ちょうど三年前、伊根の舟屋が気になり、いつかは行ってみたいとずーっと思っていました。去年連休を使って伊根の旅行を計画し、珍しく民宿を経験しました。伊根とは京都府与謝郡伊根町の事であり、丹後半島の伊根湾を囲むように舟屋群が立ち並ぶ漁村です。舟屋とは漁師の家であり、一階は船が出入りでき、二階は住居となっているのが多い。江戸時代から残っている舟屋を含め、現在伊根町で二百三十余りの舟屋が確認されている。舟屋としては珍しい国の伝統的建物群保存地区に指定されている。伊根の舟屋民宿に泊まり、一泊二日で観光してきました。本当に良い旅でした。皆さん時間があればぜひ行ってみてください。

セブに戻れるものなら戻りたい (フィリピン人男性)

フィリピンでは美しい海と言えば、セブ島が一番だと思います。白い砂浜に青い海が非常にきれいです。3年前にセブ島へ新婚旅行に行きました。最初の日クラウンリージェンシーホテルに泊まりました。この40階建てのホテルはスリルを求めている人におすすめします。スカイウォーク、ジップライン、エッジコースターなどを楽しむことができます。二日目にオスロブへ行って、ジンベエザメと一緒に泳ぎました。ジンベエザメはでかくて怖いので最初はボートから離れたくなかったです。怖い一方、このチャンスが無駄にならないように勇気を出してジンベエザメと共に

泳ぎました。すごくいい経験けいけんでした。残りの日はビーチで過ごしました。

京都きょうと (スペイン人男性)

日本で一番好きな都市としは京都きょうとです。そこでは、多くの寺院や興味深い地域ちいきを訪れることをします。私のお気に入りの寺は清水寺しみずでらです。寺院を訪れた後、にねん坂ねんざかとさんねん坂さんねんざかの古い通りを散策します。私のお気に入りの散歩の場所は哲学の道です。南禅寺なんぜんじと銀閣寺ぎんかくじの間にあります。日没時には、先斗町とちやうの通りから鴨川かみがわを訪れるのが好きです。



pmta.jp - 43937706

昭和記念公園しやうわ きねんこうえん (ベトナム人男性)

日本は四季しきの変化へんかに富んでいて、春・夏・秋・冬はる なつ あき ふゆがあります。一季いっせきずつ暑さあつさも寒ささむさも体験たいけんできます。私の国は四季が全然ありません。梅雨ぼいうと晴れはしかありません。そのために私は日本にきょうみをもってきました。秋あきについては季節きせつがいいし、天気もすがすがしい日和ひよりだし、紅葉こうようがとってもきれいです。一番好きな場所は昭和記念公園しやうわ きねんこうえんです。11月中旬ちゆうじゆんから、公園の木がきれいな紅葉こうようになります。

私の好きな場所 シアトル (中国人女性)

今年の夏休みの時、私は大学のコラボレーション科目「アメリカでホームステイ」に参加しました。初めてアメリカのシアトルに行って本当にいろいろ満喫して、最高でした。コストコという大きな倉庫型店で買い物をしたり、通っていたベルビューカレッジで学生や先生たちと英会話をしたり、同じ大学で仲良くなった友達とシアトル水族館や街をぶらついたりして本当に楽しかったです。



にほんごのうりよくしけんごうかくたいけんき 日本語能力試験合格体験記

N2 合格
中国 出身 男性

英語が話せるので、日本の研究の仕事をもらって来日した。日本に来たとき、日本語は全く分からなかった。しかし、日常の買い物などでは、漢字が読めるので、それほど不便はなかった。こまったのは、医者に行った時。大きな病院では英語は通じたが、町医者ではダメだった。日本語の勉強は、この6年ぐらい。職場の中で週1回、1時間の日本語教室と、国分寺のこの教室と。ここでは、何人もの先生から親切に教えてもらって感謝しています。特に、言葉の使い方については、状況や場面(シーン)の例をたくさんあげて説明してくれたので、分かりやすかった。今回、N2の試験に合格したが、試験の数週間前に先生から集中トレーニングを受けて教えてもらえたのが良かったです。

日本語の勉強では、最初は動詞の活用変化が難しかった。今は、敬語表現がうまく使えないので、難しいと感じている。

☆ スタッフ募集

私たちと一緒に外国人の方に日本語を教えてください。ボランティアを募集しています。ご興味のある方は以下にご連絡ください。



国分寺市国際協会事務局

〒185-0034

国分寺市光町1-46-8 ひかりプラザ1階

TEL:042-505-6132 FAX:042-505-6138

E-Mail:kia@mrj.biglobe.ne.jp

にほんご ごま がいこくじん かた 日本語でお困りの外国人の方

国分寺市国際協会日本語教室では、外国人の方々が日本語が学べるように日本語教室を開催しています。お気軽にご相談ください。

水曜日(19時~21時) 金曜日(10時~12時)